



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第44回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えしていきます。

マナー編 先ずしなければならないのは? (第96回全国高校野球選手権大会での一コマ)

一打「サヨナラ」の場面、満塁で押し出しの四球を得た打者が、ガッツポーズを繰り返すばかりで、一塁に走ろうとしませんでした。これって得点は認められるのでしょうか?

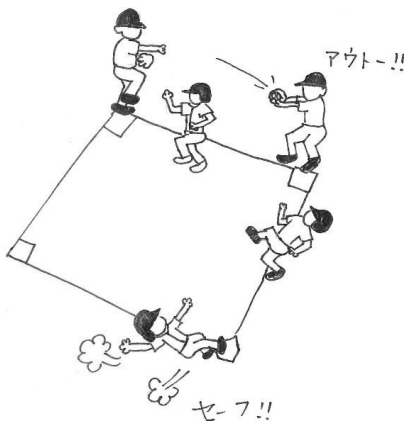
延長11回の裏で同点に追いついた二死満塁、フルカウントからの投球が“ボール”となった瞬間のことです。声を上げ、ガッツポーズを繰り返す打者にベンチは騒然、一塁コーチが慌てて出塁を促しました。
マナーとルール両面で問題があります。このケース、得点が認められるためには、規則4・09(b)【注】に定めるとおり、打者が一塁、三塁走者が本塁を踏まなければなりません。出塁をアドバイスした一塁コーチは役目を果たしましたが、「嬉しくて走れなかった」のでは野球になりません。ましてや、押し出し四球で無念満杯の相手を尻目に、繰り返すガッツポーズと雄叫びは残念でした。「ボールデッド(試合停止)」になるまでプレイは続くものです。「嬉しさのあまり」とはいえ、次のプレイを忘れた原因は、何よりも派手な振る舞いではなかったでしょうか!



ルール編 信じられない。でも、責められない。(第96回全国高校野球選手権大会での一コマ)

同じく一打「サヨナラ」の場面、1死一・三塁で打球は二塁へのゴロ。二塁手が一塁へ送球する間に三塁走者がホームイン。記録は「安打」と聞きました。

公認野球規則の10・00『記録に関する規則』に該当項目は見当たりません。
日本野球機構(NPB)の記録部によると、「**本塁へ送球するしかない場面。二塁手が一塁へ送球して2死となったプレイはエラーではないから、打者に安打を記録する**」とする特別扱いの決まり事だそうです。(特例としても「現実に二塁ゴロでアウトになった打者への安打記録」は不可解で、規則書の整備が望まれます。)同じ場面でも「4-6-3の併殺崩れ」になった時は、打者に「二ゴロ」と「1打点」が記録されます。



今回の二塁手は「何が何でもバックホームだと思った瞬間、打球がイレギュラーバウンドして頭が真っ白になり、無意識に一塁へ投げた」とのことです。我に返ってグラウンドに泣き崩れた姿は痛切でした。大舞台での大詰め、冷静さを失ったことも反省しています。
誰もこんな場面に出逢いたくはありませんが、過去にはプロ野球にも同様の例が記録されているようです。信じられないプレイで辛い結末になってしまいましたが、ある意味で無心のひた向き。球場を揺るがす拍手に「責められるプレイではない!」と励ましの声を聞きました。